

# 景気ウォッチャー調査

(沖縄地域)

2026年3月調査

## 【現状判断】

- ◆ 原油価格高騰の影響が一部で見られるものの、観光需要を中心に景気は好調。

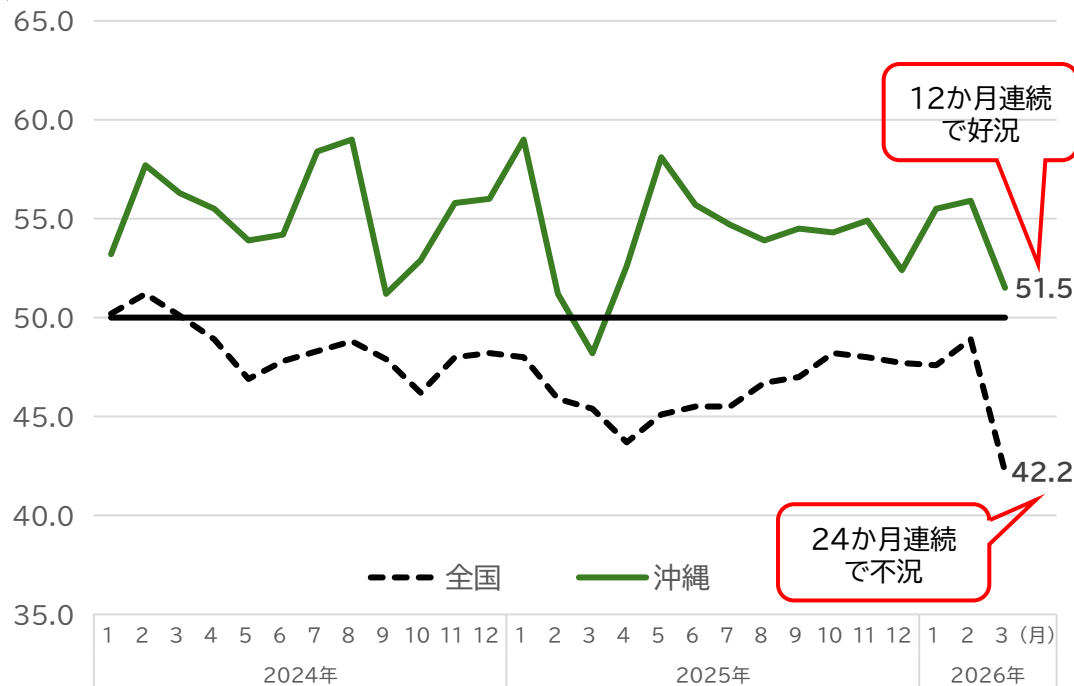
## 【先行き判断】

- ◆ 中東情勢により先行きに不透明感はあるものの、新生活や大型連休による県内需要増加の期待感。

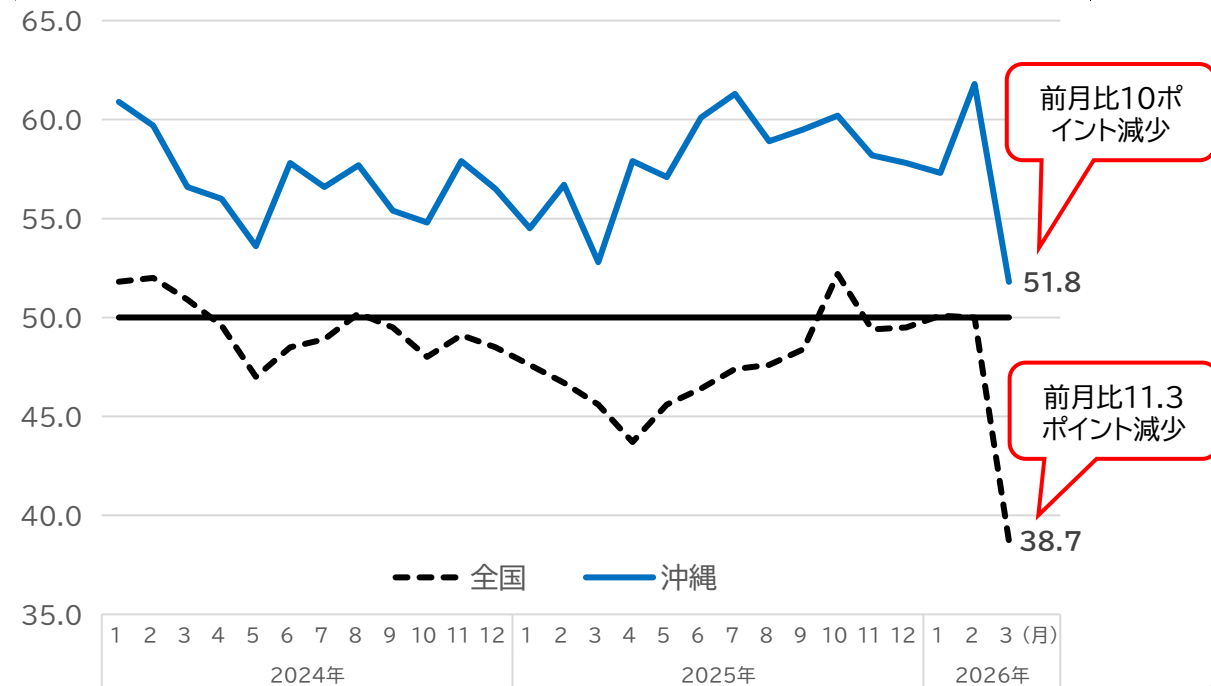
# DI値(季節調整値)の推移(2024年1月~2026年3月)

- 沖縄の2026年3月の現状判断DI値は51.5となっており、好不調の判断基準となる50を上回り、**12か月連続で好況を維持**している。他方で、全国は42.2と24か月連続で不況が続いている(図1参照)。
- 沖縄の2026年3月の先行き判断DI値は、**51.8**となっており、**2~3か月後の景気動向も好況が続く見通し**ではあるものの、前月比で10ポイントの減少となっている。他方で、全国は38.7と前月比で11.3ポイントの減少となっており、2024年以降で最も低い水準になっている(図2参照)。
- 現状、先行き共に、中東情勢による影響でDI値は前月比で大幅な減少となったものの、**沖縄のDI値はそれぞれ50を維持する結果**となった。

## 図1 現状判断DI値(季節調整)



## 図2 先行き判断DI値(季節調整)



# 現状判断のコメント（一部抜粋）

- 原油価格高騰の影響が一部で見られるものの、観光需要を中心に景気は好調と判断しているコメントが多くみられた。

（◎：良、○：やや良、□：不変、▲：やや悪、×：悪）

分野	業種	判断	判断理由
家計動向関連	観光名所	○	・ 前月から今月にかけて、 <b>来客数が前年を超えている</b> 。
	その他専門店 [書籍]	○	・ 春休みシーズンで繁華街は多くの人であふれており、観光客も来店している。 <b>インバウンドも前年より微増している</b> 。
	乗用車販売店	□	・ 中東情勢の不安から、ガソリン価格の高騰が続いており、 <b>車の購入意欲が低下</b> しているとみられる。
	通信会社	▲	・ 3月の販売数は、前年比で1割減少となっている。中東情勢の影響で光熱費の価格が上昇した場合、 <b>更に販売数が落ち込む</b> とみている。
企業動向関連	食料品製造業	○	・ <b>観光関連の売上は好調に推移している</b> 。最低賃金引上げの影響により、一般消費者による食品の売上も増加しているとみている。
	輸送業	▲	・ 原油価格の高騰で、トラックの輸送費や <b>物流業務で使用する資材が高騰</b> しており、入手が困難になっている。
雇用関連	求人情報誌 製作会社	○	・ 卒業シーズンによる欠員補充や、ゴールデンウィーク前の採用需要を背景に、 <b>サービス業の求人数は増加傾向にある</b> 。
	学校 [専門学校]	▲	・ 企業と学生共に就職活動の動きが早まっているため、求人時期が前倒しされている。それに伴い、 <b>求人数は前年同期比で減少している</b> 。

# 先行き判断のコメント（一部抜粋）

- 中東情勢により先行きに不透明感はあるものの、新生活や大型連休による県内需要増加を期待するコメントが多くみられた。

(◎:良、○:やや良、□:不変、▲:やや悪、×:悪)

分野	業種	判断	判断理由
家計動向関連	百貨店	○	• 新生活や母の日ギフト需要のほか、ゴールデンウィークなどで来客が増加するとみている。
	スーパー	○	• 今後2～3か月先は、季節行事の好調を維持しつつ、5月の清明祭や大型連休に向けて需要が継続されるものと見込んでいる。物価高騰による節約志向は続くものの、行事等の支出意欲は底堅く、客単価の上昇が景況感を押し上げる要因になるとみている。
	衣料品専門店	□	• 中東情勢は見通しが困難である。原油の確保状況次第で景気は大きく変化するとみている。
	観光型ホテル	▲	• 原油価格高騰に伴う物価や航空運賃等の上昇により、旅行需要の低下が懸念される。さらに、ガソリン価格上昇の影響で遠出を控える動きが見られ、北部地域のホテルや観光施設などへの来客数が減少するとみている。
企業動向関連	建設業	○	• 建築計画の相談も複数あり、技術者採用を推進する予定である。
	会計事務所	□	• 国際情勢の先行きが不透明なため、景気判断の動向が困難である。
	広告代理店	□	• 基幹産業の観光は好調に推移しているものの、中東情勢による原油価格高騰への危機意識が高まることで、県内企業が販売促進投資を抑えるとみている。
雇用関連	求人情報誌 製作会社	□	• 人手不足感は継続しており、今後も求人件数は増加傾向で推移する見込みである。一方、5月から6月にかけては求職者の動きが一服し、転職・就職活動はやや落ち着いた状態になるとみている。

# <用語の説明>

## 景気ウォッチャー調査

- 地域の景気を観察できる立場にある人々から、統計指標だけでは把握できない顧客の様子など日々感じている街角の景気動向を迅速に把握するため、毎月実施されている調査。

## DI値

- 物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方角性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回ると景気が好況傾向にあり、50を下回ると不況傾向にある。算出方法は、景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、DIを算出している。

評価	現状判断	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
	先行き判断	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらともいえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	現状・先行き 共通	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

## 現状判断(景気の方角性)

- 3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気的具体な状況などの説明。

## 先行き判断

- 2~3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2026年4月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2026/0408watcher/menu.html>